

論文審査結果の要旨

本研究は副師長という看護管理者の初心者に焦点を絞り、キャリアを開発するために重要なファクターとして「レジリエンス」に着眼したことは、独創的であり、研究の意義は高い。また、本研究は3つの段階で構成されており、各段階の結果をもとに、次の研究目標を達成できていることから、研究遂行能力は高いと判断した。

I. 予備審査では、以下の点について指摘があった。

1) 一部署における副看護師長の人数が複数か単数か、その立場上の位置づけに関して、どのように考えたのかを説明する、2) 第1段階の質的研究結果：副看護師長に必要とされるレジリエンスのサブカテゴリの「揺るぎのない考えを有する」は、能力を示すものとして違和感があるため説明が必要である、3) 第2段階の量的研究結果：測定尺度として用いるのであれば、項目全体で天井効果やフロア効果がないかどうかを確認する、4) 第2段階の量的研究結果：探索的因子分析の結果において、「所属部署の看護に必要な専門的実践力を備えている」は因子構成から外れているが、その程度を把握することは、この後のプログラム開発におけるニーズアセスメントとして必要な情報であると考えられる。そのため、質問項目の得点割合は、探索的因子分析の前に全項目において実施するほうがのぞましい。また探索的因子分析結果の表に因子寄与率、累積寄与率、因子間相関の数値を入れる必要がある、5) 第2段階の量的研究結果：確認的因子分析の結果のモデルの採択根拠について、カイ2乗、自由度で判断する場合は、文献を用いるか、AICの数値を用いるかを検討する、6) 第3段階結果：プログラム構築について、ステークホルダー分析をどのように行うのか、論文で述べておく必要がある、7) 第3段階結果：プログラム構築について、「リフレーミング」の用語の説明を加える・プログラムを実施する際のファシリテーターを明らかにする、8) 考察について、先行研究のレジリエンス向上プログラムとの共通点、相違点、特徴について考察すること・レジリエンスの獲得的要因、資質的要因と本プログラムとの関連について追加すること・レジリエンスの向上とナレッジマネジメントの関連について再考すること。

上記の指摘事項については、公開審査時の論文では適切な修正がなされていた。

II. 公開審査では、以下の点について指摘があった。

1) 副看護師長のレジリエンスの特性を表す4因子とレジリエンススキルとの関連を説明すること、2) レジリエンス向上プログラムのうち第2ステップの「柔軟な思考で状況を客観的に認識し困難を解決に導くサイクル」の展開方法の説明について、3) レジリエンス向上プログラム内容の有用性と限界について、4) 看護管理学への示唆を追加すること、5) 探索的因子分析で得られた第1因子「客観的な状況認識」の命名の説明を追加すること、6) レジリエンス向上プログラムで実施するリフレーミングの説明を追加すること、7) 副看護師長の定義の再検討を行うこと、8) 英文タイトルの検討について指摘があった。

最終論文では、公開審査時の指摘事項について、適切に修正がなされており、博士論文の基準を満たしていると判断した。

以上のことから論文審査委員会では、本論文が予備審査結果および最終審査結果の指摘に沿って適切に修正されていること、修正過程を通してさらに本研究の意義が明確になったことから、学位規則第4条第1項に定める博士（看護学）の学位を授与することに値するものであり、申請者は、看護学における研究活動を自立して行うことに必要な高度な研究能力と豊かな学識を有するものと認め、論文審査ならびに最終試験に合格と判定した。